

## サルビアの花が教えてくれたこと

福岡県 一枝小学校 4年 村上 香叶子

ピアノがある金曜日のこと。練習せずに行って先生におこられちゃうなど、暗い気持ちで信号待ちをしていました。

公園の花だんには真っ赤なサルビアの花が咲いていました。そのそばで、一人のおばあさんが、暑い中、花だんのざっ草をぬいたり、ごみを拾ったりしていました。

わたしは、知らんぷりしようと思ったけれど、なんとなくいけないような気持ちと、でもどうすればいいかわからずに、そわそわしていました。知らない人に声をかけたことは、今までになかったけれど、思い切って、

「こんにちは。」

と、ドキドキしながら小さい声で言いました。すると、

「こんにちは。あら、おじょうちゃんは習い事かな。がんばってね。」

と、やさしくえがおで答えてくれました。わたしは、

「はい。」

の二文字しか言えなかったけれど、なんだかスッキリして、走ってピアノに行きました。

ピアノが終わって、公園へ走っていったら、おばあさんはもういませんでした。「うまくピアノができたよ」と話しかけようと思っていたので、少しざんねんでしたが、公園がきれいになって、サルビアも水にぬれていて、うれしそうに見えました。

公園では、たくさんの人たちが、楽しそうに遊んでいました。わたしは、このたくさんのおばあさんのどれだけの人が、おばあさんが公園をきれいにしてあげたことを知っているのだろうと思いました。本当は、わたしもみんなもおばあさんに、「ありがとう」を言わないといけないのに、伝えることができなくて、わたしは心がもやもやしました。

次の日から、わたしは、学校や学童の花だんの花に水をやったり、ざっ草をぬいたりしています。あのおばあさんのまねをすると、心がうれしくなるからです。

小さな親切がどんどん広がっていけば、町も人の心もやさしさを温かくなると思います。わたしも小さなことでも、人によろこばれることをして、えがおのたねをまきたいです。